

# あじえんだ



小金沢シオジの森（写真提供:北都留森林組合）

シオジ...モクセイ科。葉先が急に細くなり、ややしっぽ状にとがる落葉高木で、関東地方以南に分布。

## Contents

2005年度桂川・相模川流域シンポジウム	2
・「桂川・相模川の未来を創ろう」	
上下流交流事業	4
・「相模湾船上観察会・交流会」	
・行ってみよう!森の中へ 『間伐体験&森のコンサート』	
森づくり関係事業	6
・「水源地観察会」	
かながわの水源地環境保全・再生	7
・かながわの水源地環境保全・再生をめざして	
・上流側から思うこと	
流域ウォッチング13 流域の古刹	8
さまざまな活動をしています	10
・環境調査事業(シジミ類共同調査)	
いま流域で起きていること	12
・帝京科学大学グラウンド造成工事(上野原市)	
・美しいコケとトンボとホテルの里・尾山耕地(愛川町)	
シリーズ 生きものたちの語る相模川 12 「ツバメvs.イワツバメ」	14
地域協議会だより	15
・桂川・東部地域協議会	
・相模川よこはま地域協議会	
・相模川湘南地域協議会	
・さがみはら地域協議会	

## ● 「桂川・相模川の未来を創ろう」 ● ● ●

2005年11月5日 サン・エールさがみはら

桂川・相模川流域協議会が設立の準備期間から始まって10年の歳月が流れたが、流域の環境はどう変わったのだろうか。市民・事業者・行政の三者で100を超える流域のアジェンダを策定し、アジェンダの実施、行動をする間に、地球規模で迫ってくる環境の危機が、われわれの意思とは関係なく、環境への視点に向いてきたのではないだろうか。

そのような中で、利害関係が相反する三者が合意のもとで環境保全を行動していくという前例のない協議会のなかで、手探りをしながら、「清く豊かに川は流れる」の理念のもとに邁進してきた。

河川法が改正され、コンクリート護岸の排除、住民、市民の意見反映、河畔林の復元と、市民が努力に努力を重ねて言い続けても難しかったことが可能になり、反映されることにはなった。果たして桂川・相模川の水質、生き物たちにどれほど良い影響がでているだろうか。流域の生活の負荷

が軽減されているのだろうか。流域協議会が、何ができたのだろうか。

これらを検証して桂川・相模川の未来を語り合い、次へと行動し実践することを、「森づくり」、「生き物との共生」、「ごみ問題」、「水質」の分科会で、それぞれ提言をし、確認し合う場となった。

(実行委員長 倉橋 満知子)



全体会の様子

## 生き物分科会



生き物分科会の様子

相模川中流域の水生昆虫、魚貝などが展示された会場では、神奈川県内水面試験場の勝呂尚之さん、山梨県水産技術センター加地弘一さんのアドバイスのもとに、活発な意見交換が行われた。

「川の環境を、地域ごとに選定した指標種（たとえばアユカケ）で評価してみよう」、「湧水、伏流水のマップを作成しよう」などなど。ほかに「生きものが上り下りできない魚道や砂防堰堤等の実態を、ツアー＆ウォッチングで是非見てみよう」、「ナマズなどがコンクリート水路から田んぼに出入りするための特設魚道を設けたい」、「流域各地のアユを食べ比べてみよう」といったユニークな提案も出て、時間がまだまだ足りない分科会であった。

(天内 康夫)



## 森づくり分科会

森づくり分科会では石村黄仁氏（NPO法人緑のダム北相模）がリーダーとなり、「水源林の危機を救う、流域材の活用法とは」というテーマで進められました。

分科会会場には多くの方々の参加があり、流域の森林管理に向けた材の活用法として、建築材としての活用や机・椅子などへの活用が挙げられました。

結果として、この森づくり分科会では、これらを流域材として位置づけ、例えば造林・伐採・製材・加工・建築といったサイクルを、桂川・相模川流域内で、山梨県、神奈川県行政の枠を超えて各段階の関係者と協力し、積極的に推進していくことになりました。（關 正貴）

## 水質分科会

相模原市内からマンション清掃に使用された洗剤が月にドラム缶にして約650缶、建物全体からは約8000缶排出され、このうち約2100缶が直接河川に流入しているという業務用洗剤の実態を示し、また、相模原市の施設において子どもの誤飲事件も起きており、利用弱者保護の視点から清掃委託をという提案を私が出しました。

坂下氏からは、合成界面活性剤の内臓および胎児への影響、精子への影響、水生生物への毒性が明らかにされ、これに対し、石炭は自然界の循環に組み込まれているとの解説がなされました。

黒木氏からは、緑地管理にプロの植木屋は有機リン系の強力な薬剤を使用しているが、害虫に耐性ができ悪循環となり、雨が降れば河川に流入するが、農薬を使用しない緑地管理も可能との話が

ありました。

最後に、これらを現状認識で終わらせず、今後改善に取り組んでいこうとの方向性が確認されました。（田嶋 龍司）

## ごみ分科会

ごみ分科会の発表は、次の4名でした。まず忍野村観光課職員から、きれいな上流の水環境を維持していく町の現状と取り組み、事業者である東京電力山梨支店大月支社からは、流域やダムのごみは年々減っているのに、取り払う費用は逆に増えているとのこと。ここでも環境悪化が蓄積されている思いでした。山梨県の「真木処分場を考える会」の、処分場建設を阻止した活動の報告。そして神奈川県「ごみ問題を考える市民連絡会」を代表して、私が産廃工場の再稼働を止めた経過や、相模原市の日本一のガス化熔融炉建設という清掃工場建て替えの話をしました。

4者ともそれぞれ違った立場からの話でしたが、それぞれの視点からの質問や意見が会場全体で活発に交わされました。

山や川や流域周辺のみならず、あらゆるごみの問題は、ごみを出す私たち一人一人の問題でもあります。行政、事業者、市民がそれぞれ真剣にごみを出さない社会を考えていかねばなりません。今を生きる私たちは、子や孫たちへ良い社会を、良い地球を伝える義務があります。このような集まりを通して、より多くの人達とその思いを共有し、伝えていくのが大切な事と、この日改めて実感しました。（市村 里江）



参加者の様子



展示パネル

## 「相模湾船上観察会・交流会」

2005年8月4日 木 平塚市において、今年度の上下流交流事業の下流側事業が開催されました。

今回は、川と海はつながっていることを感じてもらいたいということをテーマに、海の観察会や交流会等が行われました。

今年も大勢の参加があり、山梨県側からは45名、神奈川県側からは58名、合わせて103名が参加しました。

午前中は5隻の遊漁船に分かれて乗船し、定置網や烏帽子岩の周辺、潮目などを観察しました。潮目ではごみが流れており、船の上から網ですくってみると、海草や川から流れてきたと思われる木の枝、人が捨てたと思われるビニール袋などがありました。

午後は、今回参加した小学生の交流会と講演会がありました。交流会では、上流の鳥沢小学校と下流の柳島小学校の児童が、学校で行っている環境を保全する活動を紹介し合いました。

続いて講演会（浜口哲一平塚市博物館長、木幡孜元神奈川県水産研究所研究部長）では、相模川の生きものについて、クイズを交えた紹介や相模湾の漁業問題と相模川つながりについて話されました。

また、昼にはハーモニカとピアノの演奏会（片倉義人さん、広義さん）もあり、昼食を食べながら楽しい音楽を聞くことができました。

（平塚市環境部環境政策課）



船上観察会の様子



交流会の様子

参加した山梨県大月市立鳥沢小学校の児童の感想

🐟 私が一番楽しかったのは、流れもにくっついてたカニ、小さなイシダイみたいな魚にさわることです。さわるといって、拾ったんですけど、カニや小さな魚にさわるのは初めてなので、とてもいい体験になりました。小さな魚はどれも、どれもかわいかったです。

（芝田 藍嘉）

🐟 私は、船に乗ったことはありますが、遊らん船で、漁船には乗ったことがなく、貴重な体験をさせていただいたうえ、海の大切さ、海をきれいに守っていかねばならないことを改めて心に感じられました。

（天野 杏菜）

🐟 海の上にかんている藻をあみですくってみると、藻の中に小さな魚がたくさんいました。

小さな魚の住みかになっている、ということを知って私は、なぜ藻の中に住んでいるのだろうと思いました。

（森屋 梨香）

🐟 流れてくるものの中に小さな、魚やかが入っているのを見て、びっくりしました。相模川交流会へいったつぎの日ぐらいに家族で海にいった、流れてくるものをさがしてみました。また、あの魚やかみがみれたらな、と思ったのですが、けっきょくみれませんでした。

また、こういう会があったら、参加したいです。

（佐々木 麻衣）

🐟 漁船では、名前は忘れたけど、海の波浪をはかるたてものをみたり、有名ないわを見たりした。

交流会では、自分たちの学校に「こんなところがある」について発表しました。鳥沢小からは、ピオトープについて発表しました。他の学校からもこんなところがあることをきいてこんなところもあるんだなと思いました。

（佐藤 勇貴）



波浪等観測塔



烏帽子岩



## ● 行ってみよう！森の中へ『間伐体験 & 森のコンサート』

2005年10月1日土 山梨県上野原市にある上野原小学校の学校林「八重山」に神奈川・山梨両県から多くの方々が参加しました。

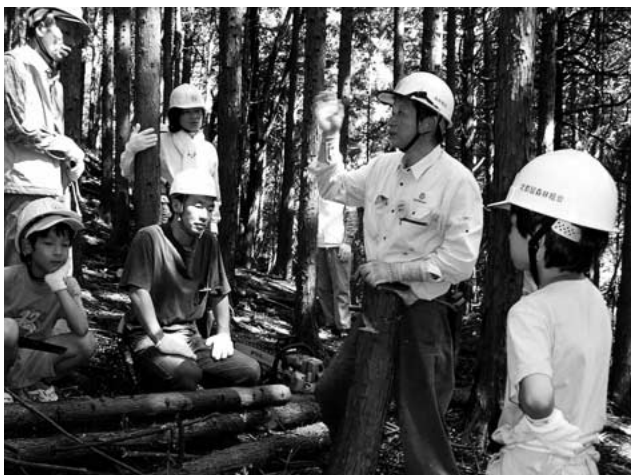
今回の上流側事業は、間伐体験、森林散策、森のコンサート（オマタタツロウ夫妻による笛等の演奏）を用意しました。

間伐体験では、森林整備のひとつ、ヒノキ人工林の間伐（間引き）を実際に行いました。森づくりの大切さ、森林生態系、林業問題などを説明し、間伐後、太陽の光が林床へ届き、参加者の笑顔と素敵な汗がキラキラ輝いていました。

森林散策では、学校林の中を実際に歩きながら子供たちの森づくりや環境学習方法などを説明しました。山頂付近からみた富士山の眺めがとてもきれいで、キノコやアケビなど森の恵みの多さに参加者も大喜びでした。

森のコンサートでは、森の中での音楽会を楽しみました。笛の音色に鳥たちも一緒にさえずり、とても癒され、木洩れ日の中、森の気持ちよさを体感したことと思います。

（北都留森林組合 中田 無双）



間伐体験の様子

### 参加者の感想

森のコンサートで、竹や木の実の楽っきのえんそうを聞いて気持ちがとってもやさしくなりました。いっぱいれんしゅうして何でも吹けるようになったんだって。私もいっぱい練習したら吹けるようになるのかなあ。私は、どんぐりぶえしか知らなかったの、いろいろな木の実でちょうせんしてみようと思いました。妹といっしょに木を切

った間ばつ体けんや高いところまでのぼることができた木のぼり体けんもすごく楽しかったです。また、行きたいです。

大村 知聖（7



木登り体験の様子

今回の交流事業では、親子ともども自然を満喫することができました。3歳の娘が大人に交じって、細い山道を初めて上り下りして、歩き通したことは驚きでした。一言もわがままを言いませんでした。5歳の息子は、一休みしたときに、どんぐりを含めて色とりどりの実を見つけては、周りの大人から説明を受けて、楽しそうでした。森のコンサートでは知り合った子ども達と仲良く腰掛けて、顔を見合わせながら真剣に聞いていて、ほほえましく感じました。また、のこぎりを使って、木を切り倒したことは、通常の生活からはありえないことで、貴重な体験だったと思いました。

3歳の娘さん、5歳の息子さんと参加した



森のコンサート  
演奏者  
オマタタツロウ氏

## 「水源地観察会」

2005年11月20日 山梨県大月市笹子町において、みなさんの飲んでいる水の水源を一目見ていただくため、森づくり関係事業「水源地観察会」を開催しました。当日は会場が日陰であったということもあり、とても寒かったのですが、40名の参加がありました。

午前中は、水源の森の間伐材からミニプランターを作り、それに鉢植えをしました。なかなか釘打ちが難しいようで、何度も何度も釘を抜いている方もいらっしゃいました。

昼食時に出席されたおいなりさんを小さいお子さんがほおぼる姿はとても印象的であり、また、温かい豚汁は冷え切った身体の隅々まで染み渡りました。

午後には、山の土壌をふるいにかけて、土壌生物の観察や水源の森の散策、蝶の話を行いました。中でも山梨県の天然記念物に指定されている矢立の杉の雄大さには、みなさん深く感心していた様子でした。

(山梨県大月林務環境部)



間伐木材利用したミニプランター

### 参加者の感想

現地において、各種のご案内や心のコもった御説明をいただき誠に有難うございました。最終に見学しました『矢立の杉』についての感想です。「日本一の富士山」と「日本を代表するスギ」は、共に山梨県の誇りであります。「矢立の杉」が生

育している立地（局地環境）は、最良の生育の適地であることに気づき感動いたしました。旧街道の路傍にあり、昔から地元の多くの「甲州の人達」の愛情あふれる保護・手入れがあったものと考えられます。山の中腹の緩斜面にあるため、峰筋は土壌が浅く乾燥気味で特に風衝地は倒木の恐れがあり、沢筋は過湿となり土壌流失の恐れがあること。現状から直ちに措置したい対策として、根元の空洞部に人が侵入しない様、例えば柵の設置とか、「樹木医」の診察を受けることも大切と思います。

(杉村 敬一)

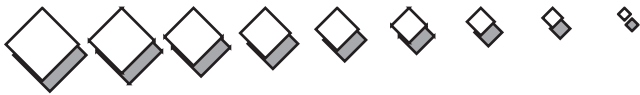


蝶の話の様子（矢立の杉前）



水源の沢の様子





## ● かながわの水源地環境保全・再生をめざして

神奈川県企画部土地水資源対策課

神奈川県では、早くから水源開発に力を注ぎ、平成13年の宮ヶ瀬ダム completionにより、県民生活を支える水量の確保には一応の区切りをつけることができました。しかし、水源環境に目を向けると森林の荒廃や上流域における生活排水対策の遅れなど様々な課題があります。

そのため、県では水源環境保全・再生施策と財源のあり方について、流域環境保全に関わる皆様方をはじめ、県民の皆様や市町村等との意見交換を重ね、さらに県議会での議論を踏まえて、20年間の取組全体を示す「かながわ水源地環境保全・再生施策大綱」と、最初の5年間に取り組む「実行5か年計画」の2つからなる計画を策定しました。

これらを踏まえて、平成19年度から計画に盛り込んだ事業を推進するとともに、その財源として個人県民税の超過課税を県民の皆様にお願ひすることになりました。

今後は、施策の推進を図ってまいります。今回の取組で最も大切な点は、県民の意志を基盤として施策を推進する仕組みを構築したということです。

水源環境保全・再生の取組は自然環境を対象としているため、どれだけ効果が上がるか、正確に予測することは困難です。状況を見て事業規模を見直す、あるいはやり方を変えていくことも必要です。こうした場面で行政が一方的に決めるのではなく、「県民会議」をつくり、そこに住民の代表や事業者などにも加わっていただき、成果を報告して議論を行い、今後の対策を決めていくこととしました。

政策の立案、事業の実施、評価、見直しの各段階において、県民の皆様が直接関わることができる仕組みを築き、その積み重ねの中で県民の皆様力を結集し、水源環境を守りたいと思っています。



## ● 上流側から思うこと

河西 悦子

神奈川県の水がめといわれる相模湖は、その利用人口600万人といわれ、県民の6割を超える人々が飲料水としてはもとより様々な利用している。その相模湖に流れ入る河川の水の大半は、山梨県側の桂川からである。今回の水源地環境税の経過の中で、神奈川県知事が県民に向け、一貫して相模湖上流域（山梨県桂川流域）を明確に水源地と示したことは重要である。

しかし、「実行5か年計画」を見ると、事業総額190億円、山梨県側に関わる事業として、[相模川水系・環境共同調査の実施]に9800万円と、検討当初から大きく後退している。桂川・相模川流域協議会発足当初より山梨県側メンバーとして関わってきたが、流域の行動計画『アジェンダ21桂川・相模川』は、今回の担当部署である土地水資源対策課とも一緒になって作り上げてき

た。今さら5年間を調査のみに費やすことにはうなづけない。

山梨県も、昨年水源地として桂川流域にも関わる施策として「水政策基本方針」を打ち出した。桂川・相模川水系において、両県は政策をしっかりとかがみ合わせるべきであろう。

山梨県の桂川流域市民にどれだけ情報の共有化がなされ、意見がどのように反映され、実行されるか。透明性をもって両県民に見える形にしておくためにも、流域協議会を活用していくことが必要である。先見性を持って合意した『アジェンダ21桂川・相模川』を今回の「実行5か年計画」に生かしてほしい。下流域との連携が上流域の活性化につながり、流域環境保全・再生に花開くことを期待している。

# 流域の古刹



ほうふくじ  
保福寺(上野原市上野原)

保福寺は、県指定文化財の銅製雲版を所蔵している。雲版は寺で食事や法要の際、合図に打ち鳴らす楽器で、保福寺のものは銅製で縦44cm、横40cm、厚さ0.7cm、撞座直径9cmの大きさである。応安6年(1373年)大工金刺重弘によって作られ、現在県下に残る雲版では最古の逸品。

この雲版がある保福寺は、中里介山の「大菩薩峠」に登場する月見寺のモデルといわれている。

ほうきょうじ  
宝鏡寺(大月市七保町林)

山号を雲沢山と号する。創建は大同2年、古くは真言宗の寺であったと伝えられるが、詳細は不明である。部材の中には室町時代の特徴を示すものがある。いつの頃からか廃寺となったが、薬師堂と呼ばれる本堂や仁王門が周辺村民の力で伝えられてきた。

堂内には、薬師如来像、十二神将像などが祀られている。



ちょうしょうじ  
長生寺(都留市下谷)

曹洞宗大儀山長生寺といい、小山田、鳥居、秋元氏など歴代都留城主の菩薩寺として厚遇された。末寺が二十九ヶ寺もある郡内地方の名刹である。寺宝として、「小山田信茂寺領書立文書」、「小山田出羽守信有画像」、「釈迦三尊十六善神像」等多くの市有形文化財が残されている。

しょうかくじ  
正覚寺

(相模原市(旧相模湖町若柳))

創立嘉慶元年(1387)開山雲潭玄陰、鎌倉建長寺第二十八世覚海禅師の法孫。本尊は行基菩薩の御作、名付観音として命名みくしを出す。境内には西行法師の歌碑、柳田国男の句碑あり、道祖神、木洞地藏、百米の滝ツツジ、五色椿等あり、又建長寺山門柱木出所の寺として、狸和尚の伝説、自筆、化首等あり有名である。



じゅとくじ  
寿徳寺(山中湖村平野)

海雲山寿徳寺は臨済宗妙心寺派禅宗の寺院。鎌倉時代に鎌倉の建長寺修行僧・美山玄誉禅師によって開山され、戦国時代は武田家の祈願寺として厚い加護を受けた。元禄の地震で埋没し、1720年、現在の場所に移転。県指定文化財「星曼陀羅」などを所蔵。昭和初期にオペラ「蝶々夫人」のプリマドンナとして世界に名を馳せた三浦環女史の墓がある。







むりょうこうじ  
無量光寺(相模原市当麻)

相模原市当麻、国道129号の東側「亀形峰」と呼ばれる亀甲形の丘の上に立つ無量光寺は、藤沢市にある遊行寺とともに、時宗大本山のひとつで、相模原市の史跡にも指定されている。1261年(弘長1)、一遍上人が開山し、一遍上人といつも行を共にした二世の真教上人によって、無量光寺という現在の寺号になったといわれている。



じょうけんじ  
浄見寺(茅ヶ崎市堤)

江戸時代の名奉行「大岡越前守忠相」を出した大岡家は、茅ヶ崎の堤村を領地として治めていた。2代当主忠正が初代忠勝の追善のために建立したのが浄見寺で、大岡家累代の菩提寺である。

山門左の一段高いところに並ぶ一族13代の墓所は市史跡となっている。寺林と墓所の脇に立つオハツキイチヨウは県天然記念物であり、さらに室町時代作とみられる弁財天坐像は県重要文化財に指定されている。

また、春に行われる大岡越前祭の初日には寺内で盛大な墓前法要が行われる。



いひやまかんのん はせでら  
飯山観音(長谷寺)(厚木市飯山)

坂東三十三ヶ所の第六番目札所。建久年間(1190~99)に源頼朝が造らせたのが始まりとされ、観音堂は江戸時代の再建。本尊の10cmの十一面観音像は行基作といわれ、176cmの同じく十一面観音像の腹中に安置されている。縁結びの観音様として有名。また、鐘は貞和6年(1350)のもので、観音堂とともに重要文化財に指定されている。



しょうこくじ  
星谷寺(座間市入谷)

行基が創建したと伝えられる真言宗の古刹で、板東33ヶ所巡礼第8番札所として知られている。星谷観音堂がある。

国の重要文化財の指定を受けた梵鐘は、鐘をつく座が1ヶ所しかなく、日本三奇鐘の1つとされてきた。

また、小田原北条氏の帰依が篤く、宿舎として利用していたことを物語る書状「星谷寺文書」も伝えられている。



## 環境調査事業（シジミ類共同調査）

●「川の日ワークショップ関東ユース大会 市民の科学賞受賞!!」

市民部会 宮野 貴

2004～2005年度にかけて、環境調査事業の一環として行われた「シジミ類共同調査」の結果概要について報告します。この調査は、淡水産のシジミについて、生息実態が明らかとなっていない流域の山梨県側を中心に行ったもので、神奈川県伊勢原市にある私立向上高校の生物部（顧問：園原哲司教諭）との共同調査として実施しました。

調査は下図に示す27地点（山梨県：19地点、神奈川県8地点）で実施し、山梨県側は生息数が非常に少ないことが判りました。しかし、私たちが注目していた外来種のタイワンシジミを山中湖、河口湖で採取し、私たちの足下にも外来種が忍び寄っている現実を実感しました（この生息確認は県内初と思われます）。詳しい調査結果は『2005年度活動報告書』に掲載します。

なお、11月12日に開催された「川の日ワーク

ショップ関東ユース大会」にて、調査経緯・結果を発表しました。幸いにも入賞し『市民の科学賞』を受賞しました。審査員からは「よくぞここに気がついた」「県境を越えての調査は素晴らしい」「全国展開すべきだ」とお褒めと激励の言葉を頂き、関東の多くの仲間からは「自分達も調査したい」と賛同が相次ぎ、早いところではシジミを採取して送って下さる人達もいます。

流域協議会全体での調査はこれで終了しますが、全国との連携の輪は広がっています。皆さんの近くの水辺にはシジミはいませんか？そして、それは日本産ですか？それとも外国産ですか？足下を良く見つめてみましょう。

最後になりましたが、ご指導頂いた向上高校の園原先生と生徒の皆さん、ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

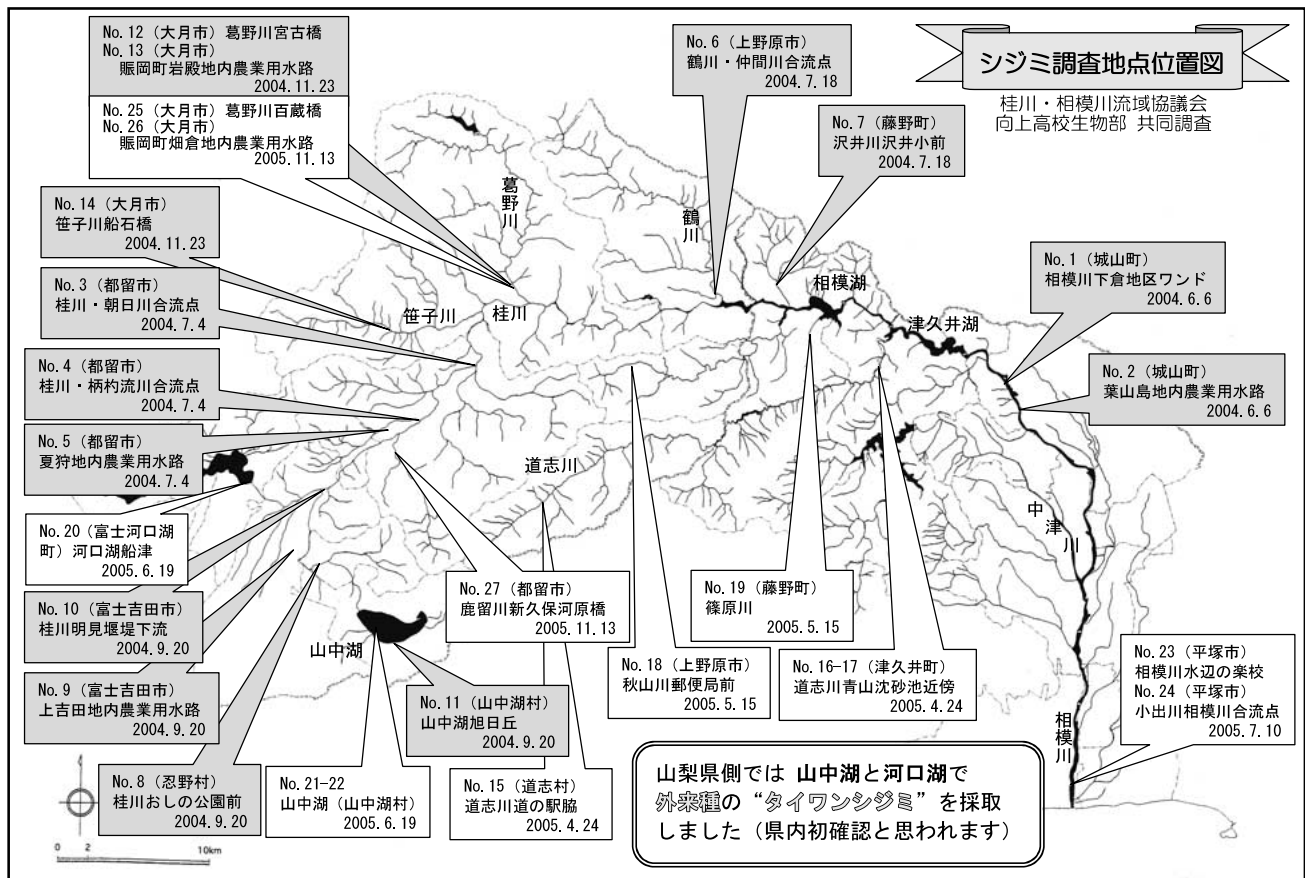


図-1 桂川・相模川流域 シジミ類共同調査地点位置図



● 桂川・相模川流域協議会とのシジミ類合同調査を終えて

流域協議会とは、神奈川県環境科学センターの野崎隆夫氏の紹介でお付き合いが始まりました。1999年より、向上高校生物部が調査を続けてまいりましたタイワンシジミの調査報告書をご覧になった多賀照子さんが、流域協議会の環境事業にシジミ類の調査をと提案してくださったのがスタートでした。

2004年5月に学習会を開き、6月には城山町の相模川でシジミ類調査のリハーサルとして実習をしました。雨の降りしきる中、丸一日シジミ採集をしました。「この雨では、残念ながら今日は中止かな？」と思っていた私には、「この程度の雨で中止にしたことはありません。」ときっぱりおっしゃった天内康夫さんの言葉が強く印象に残っています。「大変な方たちと合同調査をはじめてしまったかな。」と内心思いました。

これ以降、7月から桂川流域のシジミ類共同調査が始まりました。宮野貴さんが中心になって、毎回調査地点の選定と下見をしてくださり、2年間かけて桂川全流域、源流部の山中湖、河口湖にいたる調査が完了しました。私共が1999年から始めた相模川全流域のシジミ類調査と合わせて、桂川・相模川全流域、全長113kmに及ぶ、全国的に見ても類を見ないシジミ類の生息分布調査が完了したのです。

2年間の調査の中で、山中湖、河口湖でタイワンシジミの生息を確認しました。山梨県内でのタイワンシジミ生息確認としては、もっとも早いものだと思います。また、ホタル保護をはじめとす

シジミ類共同調査の活動の様子



2005.4.24道志川での調査メンバー  
(右側の3名が向上高校生物部の皆さん)

向上高等学校生物部顧問 園原 哲司

る自然保護活動に伴う外来種シジミ分布拡大という深刻な問題に直面しました。さらに、山中湖、河口湖に生息するタイワンシジミの由来として、漁協による放流事業に伴う外来種分布拡大の可能性も見えてきました。

桂川・相模川流域協議会の皆さんとの、地道なフィールドワークによって明らかになってきたことは、自然保護活動のあり方を問うきわめて本質的なことだったのです。自然保護に関わる活動によって、外来種が分布を拡大しているということの原因は、私たちの周りに増え続ける外来種に関する情報不足です。最近になってわかってきたことですが、水辺の専門家ですらタイワンシジミに関する情報をほとんど持っていません。ましてや、ホタル保護等に携わる市民の方々が、タイワンシジミをご存知ないのは当然のことなのです。

流域協議会や私たちが為すべき事は、地道なフィールドワークと情報発信です。流域協議会のもつネットワークを通じて情報発信すれば、全国の自然保護活動団体へ問題の本質をいち早く伝えることが可能です。多くの方に理解いただければ、自然保護活動をしているフィールドで、全国規模の外来生物調査も可能になります。

偶然見つけたタイワンシジミの調査を続けてきて、自然を見る目が変わってきました。誰も気づくこともなかった外来種シジミを通して、生態系のバランスに注目するようになりました。人間が壊している生態系のバランスを、多くの外来生物が映し出しています。2年間の合同調査を通じて、厳しい自然環境の現状と問題点を目の当たりにしました。環境事業としてのシジミ類共同調査は終了しましたが、本当に大切な活動はこれからなのかもしれません。

一連の調査を通じて、向上高校生物部にとって忘れられないことがもうひとつあります。それは、ニホンミズシタダミという大変貴重な巻貝に出合った事です。きっかけをつくって下さった小西一郎、有井鈴江両氏に感謝いたします。

私たちの活動が、地域とともに、地域に支えられていることをあらためて感じています。流域協議会の皆さん、ありがとうございました。

## 帝京科学大学グラウンド造成工事（上野原市）

中村 道子

上野原市にある帝京科学大学は山梨県の幸住県構想を基に、産業、学問、住居をエリア設定した上野原町の国土利用計画に位置づけをして、平成2年に開校しました。

開校当初から望まれていたスポーツ施設を充実するため、大学校舎に近いシンダコ沢にグラウンド造成が計画されました。

400mの陸上競技トラック、野球場、テニスコートに緑地帯を含めた計画では、開発面積が2万8千坪になります。

このシンダコ沢は普段沢水が流れていませんが、起伏に富んだ地形のため、降雨時には周囲から雨水が集まって仲山川に注ぎ込んでいく位置にあります。

このため、造成地域に排水管路を埋設し、雨水枒を3箇所設置する工事を行っています。埋め立てには鶴島地域で陸揚げされた神奈川県企業庁の相模湖<sup>しゅんせつ</sup>浚渫土砂を利用しています。

土砂は50万m<sup>3</sup>が搬入される予定ですが、運搬には毎日80台から90台のダンプトラックが使われており、平成21年に完成が予定されています。



造成中

相模ダム保全のために神奈川県企業庁が行っている浚渫事業はダム上流域に溜まった土砂を鶴島地域に陸揚げし、川岸に積み上げられていて、その土砂にはシートが被された状態で仮置きされています。

上野原駅をおりて、一番に目を奪うのは桂川の川面であり、春には岸辺の桜並木が見事に花を咲かせるなど四季折々の風景はなかなか素敵です。しかし、この浚渫土砂を積み上げた様は景観としては何ともいただけません。

ここ数年、最下流にある平塚や茅ヶ崎などの海岸の砂が減少し、その対策として置き砂で海岸線を保とうとしていると聞きます。長い年月をかけて、上流の土や石などが下流に流れ下る間に、きれいな砂ができ、海岸線を形成されていたものが、ダムにより川が分断されて半世紀を超える今、海岸線が後退し、海岸そのものがなくなってしまう危機に瀕しています。

ダムから浚渫した土砂は汚泥も混じり、3ヶ月以上放置しないと埋め立てにも使えず、また周辺の土と交互に積み上げをしなければならないとのこと。

人々の生活に欠くことのできない電気事業や水道事業のためのダムですが、いろいろと考えさせられている昨今です。



造成前



# 美しいコケとトンボとホタルの里・おやまこうち尾山耕地 (愛川町)

あいかわ自然ネットワーク 大木 悦子

神奈川県愛甲郡愛川町の中津川、八菅山、尾山耕地一帯には山・川・水田・畦・休耕地・水路・池・畑など多様な里山環境・景観がひろがります。尾山耕地は、中津川堤防に沿った最大幅約150m・長さ約800mの細長い水田地帯です。

## 線形変更された町道計画

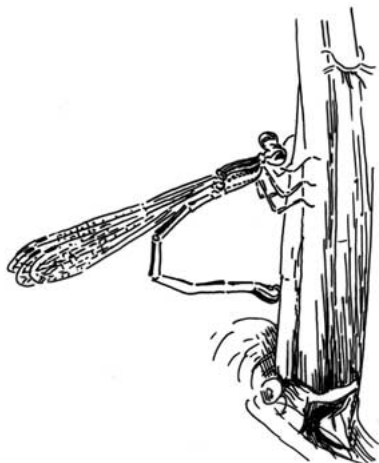
通行車両の増加を見込み、渋滞解消などを目的として、尾山耕地を縦断し、幣山から八菅橋下流まで約2km・総額約30億円の町道幣山下平線整備計画があり、すでに上流側の川沿い山斜面の橋梁工事に着手しています。

さかのぼる平成12年度、専門研究者による国の絶滅危惧類イトアメンボの発見やレッドデータ昆虫調査と提言、学識者等の要望もあり、水田地帯中央を縦断する計画が、車道を堤防沿いの水田(用地8~10m)に歩道を堤防上に変更されました。

4年間の調査で、新たにわかった大きな影響

2002~2005年にかけて行った、私達の調査活動により、国のレッドデータブック絶滅危惧類のコケ植物3種(ウキゴケ・イチヨウウキゴケ・コウライイチイゴケ)が確認されました。絶滅危惧類は、絶滅の危機に瀕している種で、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なものです。コケ植物は環境変化の影響を受けやすく生育環境全体の保全が必要であり、移植等が困難とされています。

また、レッドデータ種のうち陸生昆虫(キベリマルクビゴミムシ・オグラヒラタゴミムシ・マメハンミョウ)と水生昆虫(コオイムシ・モートンイトトンボ・タマガムシ)を選び、年間を通じた調査の結果、



モートンイトトンボのイラスト



堤防下休耕地はコウライイチイゴケの生息する町有地：町道予定地

詳しい分布や生態がわかりました。

中津川堤防下の町道予定地・水田や休耕地には、コウライイチイゴケ・イトアメンボ・コオイムシ・モートンイトトンボ・タマガムシ・トウキョウダルマガエル・マメハンミョウ他、多くの絶滅危惧種をはじめとした動植物が生息・生育しており、町道建設による大きな影響が危惧されます。

尾山耕地内のレッドデータ種は30種程

写真記録したトンボは25種。ゲンジボタルやヘイケボタルも舞う、生きもの達のにぎわう水田環境は、おいしく安全なお米や飲み水の源です。

八菅山・中津川周辺の里山環境景観いつまでも  
昨年12月町議会で、町道工事の進む上流側陸橋が完成する2年後、尾山耕地の工事に着手する事や八菅山を抜ける道路計画などがわかりました。

八菅神社や修験の地の歴史的景観・中津川周辺の里山環境は、先人から受け継ぎ、子供達に手渡す大切な地域の資源・財産です。自然を求めて移り住み、堤防を散歩する方々、地元からもどうして道路が必要かわからない、もったいないとの声をよく耳にします。

高齢化や地球温暖化防止の観点からの公共交通の推進、渋滞解消の為の交通需要マネジメントなど交通量抑制の政策に転換する動きも見られます。町道計画を見直し、堤防上遊歩道のみとするなど、地域の豊かな自然資源を活かすまちづくりを望みます。

## ツバメ vs. イワツバメ

文・イラスト 浜口 哲一  
(平塚市博物館 館長)

ツバメ：おーい、イワツバメ君、久しぶりじゃないか。半年ぶりかな。

イワツバメ：君も元気そうで何よりだ。お互い、冬の間は南の国で過ごしているわけだから、どこかで会ってもよさそうなものだけだね。

ツバメ：まあ、ぼくとイワツバメ君じゃ、同じツバメといっても、微妙に行動圏が違うからね。ぼくらは地面スレスレに飛んで餌をとることが多いけど、君たちは高いところを飛ぶことが多いよね。

イワツバメ：ぼくたちは、翼も尾も短めだから、君たちみたいな曲芸飛行は苦手なんだよ。ところで、今年使う巣はもう決めたのかい。

ツバメ：うん、去年の巣に行ってみたら、壊れていなかったからね、少し手を入れてまた使うつもりさ。表通りのたばこ屋の店先にある巣なんだ。お店のご主人が大事にしてくれるからなかなか居心地がいいよ。嬉しいことに、秋に離れ離れになったままだったかみさんとも再会できたんだ。君の方の巣はどうなの。

イワツバメ：ぼくの方は、今年も橋の下で暮らそうと思っている。橋の下といっても、人間のホームレスと一緒にしないでくれよ。コンクリートの橋桁に巣を作るんだ。集団住宅だからにぎやかだよ。

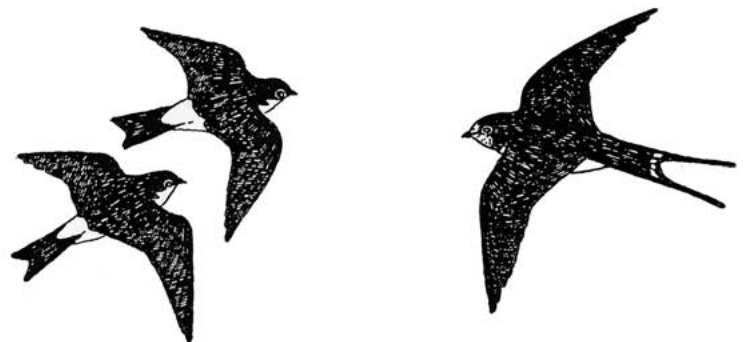
ツバメ：ぼくたちは、人の住んでいる家とか、牛のいる小屋とか、生きものの出入りのある場所じゃないと、どうも落ち着かないんだよね。

イワツバメ：ぼくも山小屋の軒下に巣を作ることがあるけど、最近はもっぱら橋桁とか、ダムとか、大きなコンクリートの建物だね。特に橋桁やダムは、当たり前のことだけど、川にあるのがありがたい。水は飲めるし、巣の材料になる泥も手にはいるし、餌も十分取れる。川はま

ったく天国だよ。そういえば、神奈川県で最初にぼくたちが巣を作ったのは相模ダムなんだ。まあ、川とのつながりはぼくらの方がよっぽど深いね。

ツバメ：君は知らないのかもしれないけど、ぼくらにとっても、川はなくてはならない場所だよ。7月頃になると、夕方、大勢河原に集まってくるのを見たことがないかな。ヨシ原に集まって夜を過ごすんだ。8月頃には、数千羽が集まるねぐらができることもあるよ。もっとも、相模川ではこの頃広いヨシ原がなくなって不自由しているけどね。

イワツバメ：それは知らなかったなあ。ぼくらは、夜はずっと巣で過ごすからね。まあ、大事な仕事はまず子育てだ。お互い、頑張ろうよ。



イワツバメ

ツバメ

## 出席者のプロフィール

ツバメ：

ツバメ科の夏鳥。喉が赤く、尾は二又に長く伸びる。人家の軒下などに巣を作る。

イワツバメ：

ツバメ科の夏鳥。腰が白く、尾は短い。橋桁や大きな建物に巣を作る。



## 桂川・東部地域協議会

桂川・東部地域協議会では、昨年に引き続き、平成17年6月から11月に渡って、二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)の測定を行いました。上野原市では8地点10箇所に測定カプセルを設置し、測定しました。上野原市で一番濃度の高かった国道20号線沿いのお茶屋さん前でも、0.035ppmであり、基準値をクリアしていました。

高さの違いによる測定値の変化も興味深い値が出ました。地域で発生する二酸化窒素と神奈川県や東京都から流れてきた二酸化窒素との混ざり具合によって、起こる現象でしょうか。大気の流れの変化や風向きの状況など複雑でなかなかわかりにくいのですが、多点調査をすることで、地域の大方の値や季節によつての変化なども傾向をつかむ一助になると思われます。今後も継続して調査を実施していきたいと考えています。

## 相模川湘南地域協議会

総会 / 総会シンポジウム「世界の水危機と日本の現状」(4/24-19名)・クリーンキャンペーン(相模川河口左岸の清掃5/29-20名)・鈴川河川改修現地見学会(5/26-16名)参加者の感想を集めて報告書を作った・河川の水質調査(6/5,12-5名あじえんだ15号p.12に報告)・上下流交流事業(海の環境観察会と浜口平塚市博物館長 / 木幡元神奈川県水産研究所研究部長の講演)への協力(8/4湘南地域協議会から小学生とも60名)・県環境科学センター見学学習会「相模湖・津久井湖における硝酸性窒素除去の可能性」(9/1-11名)・流域協議会シンポジウムにパネル展示とともに参加(相模原市11/5-3名)・Jパワー研究所公開学習会「河川における水の循環と土砂の移動」(11/10-23名)・バードマップの編集を進め'06年夏以降に刊行の予定。運営委員会：毎月第一木曜日の午後に定例の運営委員会を開いている。会場は参加している3自治

体の持ち回りにしている。

## 相模川よこはま地域協議会

「神奈川県東部地域に住む市民の命の源・水道水をもっと知ろう、そして連携・協調しよう」との目標で、役員・事務局が主体となって実施。平成17年度は“みず”探検と協働の行動元年となりそうである。幾つかの活動を紹介します。“みず”探検では、6月5日、横浜市内の柏尾川水系で全国一斉水質調査に参加実施。9月28日、西谷浄水場見学。11月20日、笹子の森・水源地観察会に家族連れで参加。1月18日、小雀浄水場と横浜市栄第2水再生センターを視察訪問。他団体との共催、連携等では、9月25日、忍野クリーンキャンペーンに役員が揃って参加。6月26日、かながわアジェンダ推進センターとの協働事業「温暖化防止のための交流エコツアー」では山中湖村と道志村を訪問。クレソンの無農薬栽培の体験談が聞けた。12月18日、地球温暖化防止の集いでは、“水”分科会をコーディネートし、桂川・相模川、酒匂川、目久尻川等で活動する市民団体間で交流が図れた。

## さがみはら地域協議会

さがみはら地域協議会は6月に設立しました。

相模川や身近な自然にふれる事業として、9月4日に相模川カヌー体験を行いました。上大島キャンプ場で、カヌーの正しい乗り方を教わり、子どもや大人が一人ずつ乗り込んで楽しみました。その後、川の中の生き物調査をして、18種類の水生生物を採取して学びました。

10月16日には、里山の谷戸田の稲刈り体験を実施しました。親子の参加が多い中で、初体験の親や、稲刈りより泥遊びや草摘みに夢中になる子どもたちの楽しそうな顔が印象的でした。

そして地域の環境問題として、ごみの減量化、資源化として、生ごみの堆肥化実験に取り組みました。各家庭でできることとして、ダンボールの生ごみ堆肥化を一步進める意味で、水源林を守る間伐材の生ごみ堆肥箱を20台作り、会員にモニターとして取り組んでもらっています。意見交換

## 流域の話題

### 新「富士河口湖町」誕生

平成18年3月1日、富士河口湖町と上九一色村南部地域(精進・本栖・富士ヶ嶺地域)が合併し、新「富士河口湖町」となりました。本町は、山梨県の南東部に位置し、東京から100km圏内にあり、南は富士山の傾斜地、北は御坂山系に挟まれた高原のため冬季の冷え込みは厳しいものの、夏季は過ごしやすく、四季折々の美しい豊かな自然を求めて国内外から多くの人々が訪れる国際観光地として発展してきました。

近年、高速交通網の充実による住民の生活圏の拡大に伴い、生活基盤整備はもとより、教育、文化、地方分権、少子高齢化等様々な分野において、広域的な視点に立った対応が求められてきており、今後、新「富士河口湖町」として、富士五湖の内4つの湖を持つ日本の「湖水地方」ともいうべき自然環境に恵まれた個性・特徴を生かしながら、地域コミュニティーが連携と連帯を強める中で、住民参加の基に一体的に町政の発展を図っていきます。

### 新「相模原市」誕生

平成18年3月20日、相模原市と旧津久井町と旧相模湖町の合併により新「相模原市」が誕生しました。本市は、東京から約30～60kmに位置することから、相模原地域を中心に急速な都市化が進み発展してきました。一方、津久井・相模湖地域は、相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖などにより神奈川県重要な水源地域となっており、丹沢大山国定公園に指定されている豊かな自然環境を有しています。今後は、さがみ縦貫道路や津久井広域道路の整備により、広域的な交流拠点としての更なる発展の可能性が高まっています。

このため、本市においては、広域交流拠点都市としての機能の充実を図りつつ、水源地域を保全・活用し、豊かな自然環境と共生した都市基盤の整備や産業の振興を推進するとともに、住民一人ひとりが主体となり、将来にわたって安心して質の高い市民生活を実現できるまちづくりを目指します。

### ホームページのリニューアルについて

桂川・相模川流域協議会では、広く情報を発信するために2001年9月よりホームページを開設しておりますが、このたび更に使いやすく、内容を充実させるためにリニューアルを行いました。皆様、お気軽に下記アドレスにアクセスして下さい。

## 平成18年度 桂川・相模川流域協議会 定期総会のお知らせ

日時：5月27日(土)  
13:00～15:30  
会場：ソレイユさがみ  
(相模原市 JR橋本駅北口)

### 事業のご案内

#### 桂川・相模川クリーンキャンペーン

流域各地域でクリーンキャンペーン実践活動している個人・団体の方から実施予定の情報をいただき、その情報を年2回作成するチラシやホームページに掲載し、発信しています。お住まいの近い地域でクリーンキャンペーンが開催される時は、ぜひご参加ください。

事務局にご予定をお知らせいただければ、軍手やゴミ袋(国土交通省京浜河川事務所提供)、水質調査キットを送付いたします。各種情報をお知らせください!

### あなたも入会しませんか!

市民年会費：個人会員

一口1,000円(一口以上)

団体会員

二口2,000円以上

事業者年会費：一口10,000円(一口以上)

<振込先>

郵便振替：振込口座 00220-5-10259

名義 桂川・相模川流域協議会

銀行振込：振込口座 三井住友銀行横浜支店

普通口座 6825559

名義 桂川・相模川流域協議会

代表幹事 河西悦子

### 編集後記

今号は「流域の古刹」を特集しました。現存する昔からの由緒ある古刹は、しみじみとした風情を醸し出しています。当時の時代背景を思い浮かべながら古刹を訪ね歩くのも趣が面白いですね。その歴史を知ると、より一層興味が湧いてきます。

さて、桂川・相模川の流域には、様々な人たちが強い思いをもって環境保全に取り組んでいます。会報誌をご覧になった方々に、流域に関わる人々の思いや流域の魅力が少しでも伝われば...。そんな思いで編集しました。(S.Y)

色覚UD

この印刷物は色覚障害の方に配慮し制作しています。

本誌に対するご意見をお寄せください。

あじえんだ113 No.16(2006.3.31発行)

発行 桂川・相模川流域協議会  
編集 あじえんだ113編集委員会

桂川・相模川流域協議会ホームページアドレス <http://www.katura-sagami.gr.jp>

事務局 山梨県大月林務環境部(2006年4月1日より、名称等が次のとおりになります。)

山梨県富士・東部林務環境事務所 〒402-0054 都留市田原三丁目3-3 TEL 0554-45-7811 FAX0554-45-7807

神奈川県環境農政大気水質課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL 045-210-4127 FAX045-210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)